

岡山県のオオクチバスは国の宝を食う

—水田地帯におけるオオクチバスの脅威—

(株)ラーゴ 生物多様性研究室 阿部 司

岡山県は国内有数の汽水・淡水魚類の生息地である。河川や水路、池沼で確認された魚類は150種を超える。その中心の岡山平野では、水田地帯においても多くの魚類が暮らしており、場所によっては30種以上の在来魚に出会うことができる。侵略的外来種オオクチバス *Micropterus salmoides* はこれら水田地帯においても生息している。そして、オオクチバスは岡山平野を象徴する淡水魚アユモドキ *Parabotia curtus* が暮らす水田地帯にも侵入している。

アユモドキは、比較的水量の多い河川・水路と繁殖場の氾濫原・水田地帯の間を往来する回遊魚である(阿部, 2012)。本種は氾濫原環境への依存性が高いため、河川改修や農業形態の変化に伴い激減し、絶滅の危機にある。その個体群は全国でも3か所の水田地帯に残されるのみとなった。本種は環境省レッドリストの絶滅危惧IA類、種の保存法の国内希少野生動植物種(2004年)に指定されている。さらに本種は、希少性や学術的重要性も高く、国指定の天然記念物(1977年、種指定)である。岡山県では、岡山淡水魚研究会の30年以上におよぶ繁殖場の維持管理など、様々な主体による保全活動によって、旭川水系と吉井川水系に地域個体群が存続している(阿部, 2013)。

アユモドキが生息する水田地帯のオオクチバスは、水路の流れが緩やかな吉井川水系の生息地では、広範囲に多数が生息し、流れが速い水路が中心の旭川水系の生息地では、その中でも流れが緩く他の在来魚が密集した個所で悠々と泳いでいる。吉井川水系の水田地帯で行ったオオクチバスの胃内容物調査では、オオクチバス(標準体長180mm)のからアユモドキ(47mm)が見つかった(阿部, 2009)。その他、サンヨウコガタスジシマドジョウ *Cobitis minamorii minamorii* (環境省第4次レッドリスト:絶滅危惧IA類)やフナ類、シマヒレヨシノボリ *Rhinogobius* sp. BF (環境省第4次レッドリスト:準絶滅危惧)などオオクチバスによる在来種の捕食が確認されている。

アユモドキが繁殖する水田地帯へのオオクチバスの侵入経路は複数考えられる。中でも下流の河川本流からの侵入および上流のため池からの流入の可能性が高い。また、水田地帯で産まれたアユモドキの稚魚は、水路を下って河川本流へ移動するが、その唯一の移動経路にオオクチバスが多数生息するため、移動途中のアユモドキが捕食されることも多いと考えられる。

吉井川のアユモドキ生息地では、オオクチバスの駆除活動が岡山市教育委員会および岡山県によって、河川における駆除手法の検討が環境省中国四国地方環境事務所によって行われたが、依然として多数のオオクチバスが生息している。現在は、岡山淡水魚研究会のメンバーによる個人的な駆除活動が行われているのみである。アユモドキをはじめ水田地帯に生息する在来魚については、外来種問題だけでなく繁殖場所や生息環境について多くの課題がある。これらの課題とあわせて、オオクチバスの影響についても、本質的な解決策を見出していかななくてはならない。

アユモドキ



阿部司. 2009. 特定外来生物オオクチバス *Micropterus salmoides* による天然記念物アユモドキ *Leptobotia curta* を含む在来魚の捕食. 陸水生物学報, 24: 1-4.

阿部司. 2012. アユモドキ (*Parabotia curta*) の氾濫原環境への適応と繁殖場所の保全・復元. 応用生態工学, 15: 243-248.

阿部司. 2013. アユモドキ (*Parabotia curta*) を保全することの難しさ—岡山県における保全活動とその課題解決に向けて—. 地域自然史と保全, 35: 23-32.

Mail: tsukasa_abe@lago.co.jp